

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	2年	1	必修
担当教員			
各担当教員			
C (商学部)	L (基礎科目)	SM (演習)	202 (中級科目)

授業のねらい (概要)	<p>ゼミナール形式の授業形態により、知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な日本語の運用能力を身に付けることを目的として、日本語による発表や討論のための基本的な方法論を修得させ、発声や発音の訓練も行い、実践的なスピーチ能力を高めるとともに、的確な意見の述べ方や議論の進め方、論理的思考、客観的思考などについて学修する。</p> <p>主張、論拠、根拠を意識しながら、他人の議論を聞き、自分の主張をまとめ、議論する実習を毎回行なう。教員が設定したテーマについて、スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッションを行ない、主張、論拠、根拠の視点から相互評価を行なう。素材や課題として日本語リテラシーⅢで扱った価値判断や主張を含む文章や、受講生が作成した文章も取り扱う。論理や主張を伝えるためのプレゼンテーション技法も向上させる。</p> <p>全体を通して、問題解決力、コミュニケーション力、チームワーク力などの汎用的技能を支える日本語運用能力の演習を行ない、また、授業担当者やメンバーとの触れ合いを通して、教養の涵養と自主・自立の人間性を育む。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション(予習 シラバスを読み学修内容を確認(30min) / 復習 シラバスのキーワードを確認(30min))</p> <p>第2回 発表や討論の基本[主張・根拠・論拠 編](予習 配付資料あるいは教科書bまたはdで指定した予習課題(30min) / 復習 教科書あるいは配布資料の該当箇所を読む(30min))</p> <p>第3回 発表や討論の基本[発声・発話・身振り編](予習 配付資料あるいは教科書dで指定した予習課題(30min) / 復習 教科書等あるいは配布資料の該当箇所を読む(30min))</p> <p>第4回 読み・聞いて論理構成を考える(1) (予習 教員の指示による予習課題(30min) / 復習 解説の確認あるいは教員が指示した教科書等の自学箇所の確認(30min))</p> <p>第5回 自分の文章をもとに発表用に論理構成を考える(2) (予習 教員の指示による予習課題(30min) / 復習 解説の確認、発表に向けてのブラッシュアップ(30min))</p> <p>第6回 主張を伝える・聞く(1)[自分の文章を元に](予習 教員の指示による予習課題、発表準備(30min) / 復習 自分や他の受講生への講評等の確認(30min))</p> <p>第7回 主張を伝える・聞く(2)[教員によるテーマ1](予習 教員の指示による予習課題、発表準備(30min) / 復習 自分や他の受講生への講評等の確認(30min))</p> <p>第8回 主張を伝える・聞く(3)[教員によるテーマ2](予習 教員の指示による予習課題、発表準備(30min) / 復習 自分や他の受講生への講評等の確認(30min))</p> <p>第9回 反論する・評価する(1)[教員の主張を例に](予習 教員の指示による予習課題(30min) / 復習 解説の確認や教科書等の自学箇所の確認(30min))</p> <p>第10回 反論する・評価する(2)[教員によるテーマ1](予習 教員の指示による予習課題、発表準備(30min) / 復習 自分や他の受講生への講評等の確認(30min))</p> <p>第11回 反論する・評価する(3)[教員によるテーマ2](予習 教員の指示による予習課題、発表準備(30min) / 復習 自分や他の受講生への講評等の確認(30min))</p> <p>第12回 チームでの問題解決の提案と質疑1[学生による調査をもとに](予習 教員の指示による予習課題、発表準備(30min) / 復習 講評等による論点の確認(30min))</p> <p>第13回 チームでの問題解決の提案と質疑2[反論と再提案](予習 教員の指示による予習課題、発表準備(30min) / 復習 講評等による論点の確認(30min))</p> <p>第14回 チーム編の相互評価(予習 教員の指示による予習課題、チームごとの論点の確認(30min) / 復習 相互評価の振り返り(30min))</p> <p>第15回 まとめ(予習 教員の指示による予習課題(30min) / 復習 最終課題等の確認(30min))</p>
授業を通して身に付けることができる能力 (DP)	<p>DPの1. 職業人的倫理観を持ち、組織で協働できる能力 2. 情報の収集、分析を行い、進んで課題解決に臨む姿勢 の習得を目指す。</p> <p>【身に付くスキル】 表現力・生涯学習力</p>
到達目標	<p>1. 事実と自らの価値判断を含む内容を、主張・論拠・根拠を意識して、指定された時間でまとめて話すことができる。</p> <p>2. 20人程度の聞き手を意識して、適切な発声や身振り手振りを活用して、まとまった発話ができる。</p>

	<p>3. 上記の目的に沿ってスライドやレジュメを作成することができる。</p> <p>4. 主張・論拠・根拠の関係を理解している。</p> <p>5. 根拠部の客観性を適切に評価することができる。</p> <p>6. 他者の主張を読み、また傾聴し、論拠・根拠を確認することができる。</p> <p>7. 自らの主張を、論拠・根拠と関連づけて構成することができる。</p> <p>8. 共同作業での執筆・制作など、短期的な目標に対して、計画・実行・評価・改善のサイクルを複数回実施することができる。</p> <p>9. 大学での学びや進路に向けての目標を確認し、3,4年次に向けて、改善・計画・実行・評価を行なうことができる。</p> <p>10. 自らの主張に対する質疑に適切に応えることができる。</p> <p>11. 異なる主張の相手と、論理的な議論を行なうことができる</p>
課題や小テスト等のフィードバックの方法	課題への個別添削、全体的な講評、共同作業支援など、授業担当者の判断で行う。
履修上の注意	大学における学修・研究、また社会生活、職業生活の基礎となる科目であり、少人数の演習形式科目という性質上、主体的な参加が必要である。以下の事項について十分に注意すること。(1) 遅刻、欠席は極力避ける。(2) 病気など、やむをえない欠席の場合には事前に担当者に連絡する。(3) 他メンバーの発言に耳を傾け、積極的に発言する。(4) 社会や自己について日頃より考え、大学での自らの学修のテーマとの関わりを意識する。
成績評価の方法・基準	到達目標1, 2, 3(日本語運用能力・スピーキングスキル) :: 50%(授業の参加度、提出物などで評価) 到達目標4, 5, 6, 7(論理的思考 客観的思考) :: 20%(授業の参加度、提出物などで評価) 到達目標8, 9(目標管理・自己管理) :: 15%(授業の参加度、提出物などで評価) 到達目標10, 11(コミュニケーションスキル・ディベート力) :: 15%(授業の参加度、提出物などで評価)
教科書	<p>[プレゼンテーション]に関する教科書を1冊、授業担当者が以下から選択 「論理が伝わる世界標準の「プレゼン術」」倉島保美 講談社ブルーバックス 900円 「論理的にプレゼンする技術」平林純 サイエンスアイ新書 ソフトバンククリエイティブ 952円</p> <p>[議論][論理]に関する教科書を1冊、授業担当者が以下から選択(日本語リテラシーIIIでも使用) 「論理が伝わる世界標準の「議論の技術」」倉島保美 講談社ブルーバックス 900円 「議論のレッスン」福沢一吉 生活人新書 NHK出版 680円 「論理的に説明する技術」福沢一吉 サイエンスアイ新書 ソフトバンククリエイティブ)</p> <p>[事実やニュース、価値判断やオピニオン]に関する資料を1冊、授業担当者が以下から選択(日本語リテラシーIIIでも使用) 「日経キーワード」 1100円 「これからの日本の論点 日経大予測2018」 1800円 「文藝春秋2018年の論点」 1450円</p>
参考書・教材	【参考書】「プレゼンテーションZEN プレゼンのデザインと伝え方に関するシンプルなアイデア」ガー・レイノルズ 丸善出版 2808円
備考	演習科目
教員との連絡方法	初回授業時に授業担当者より指示する。